

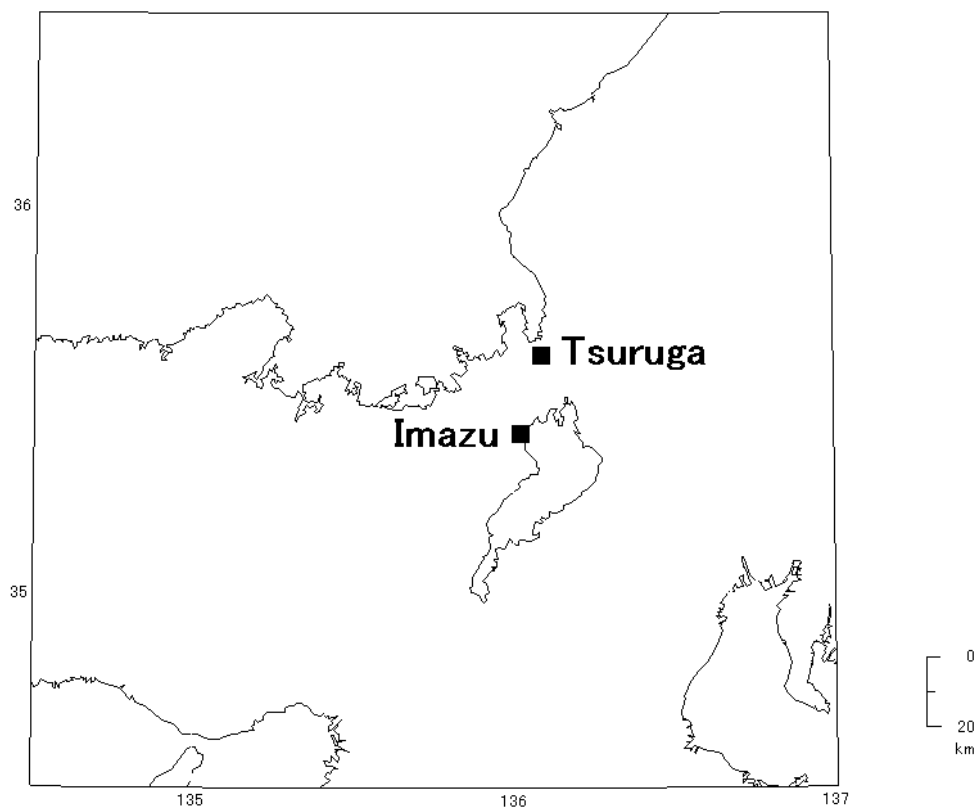
7-4 内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測

Continuous Observations of Crustal Deformations in and around Intraplate Seismic Gaps

気象研究所
Meteorological Research Institute

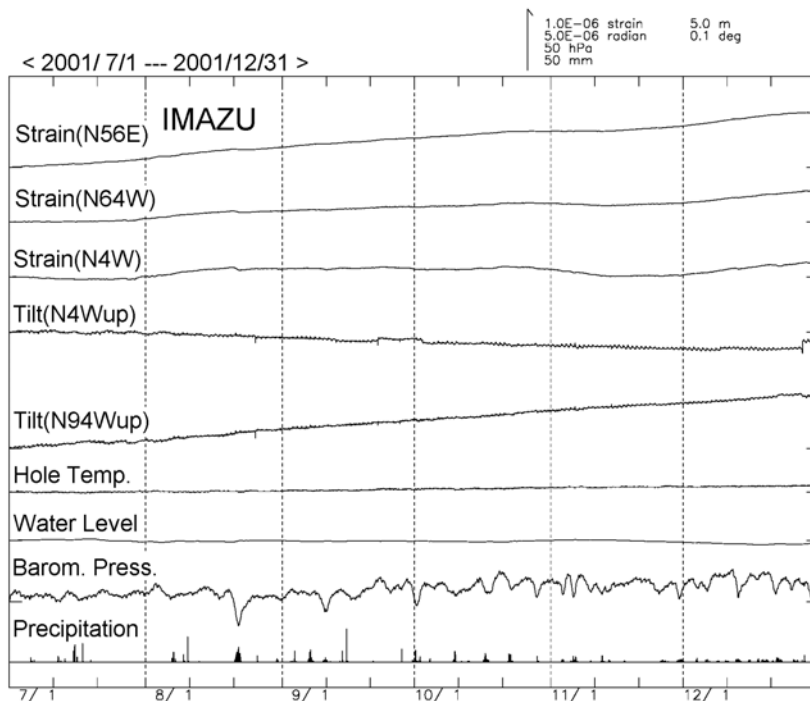
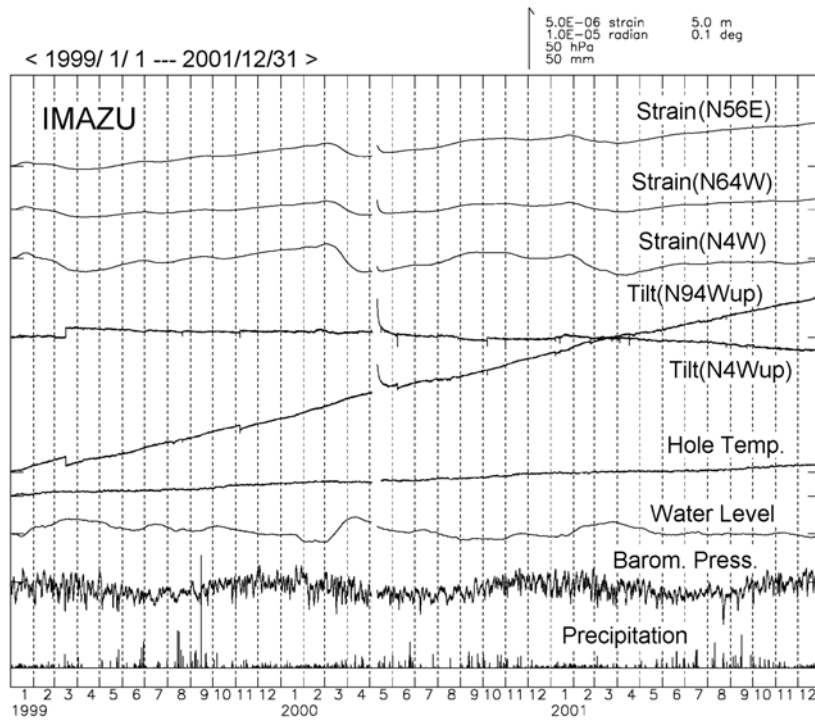
気象研究所では、いわゆる「内陸部の地震空白域」の調査研究のため、近畿地方の今津（滋賀県、 $35^{\circ}25'18''\text{N}$ 、 $136^{\circ}00'52''\text{E}$ ）および敦賀（ $35^{\circ}37'04''\text{N}$ 、 $136^{\circ}04'12''\text{E}$ ）に石井式三成分歪計、傾斜計からなる地殻変動観測施設を設置し（第1図）、1996年5月より連続観測を行っている。

第2、3図に今津・敦賀観測点の1999年1月1日～2001年12月31日の3年間、および2001年7月1日～12月31日の6ヶ月間の観測データ（時間値）をそれぞれ示す。今津・敦賀とも停電による影響があるほかは、敦賀の傾斜（N52Eup）に2001年1月から9月に変化が見られるが、この原因は不明である。



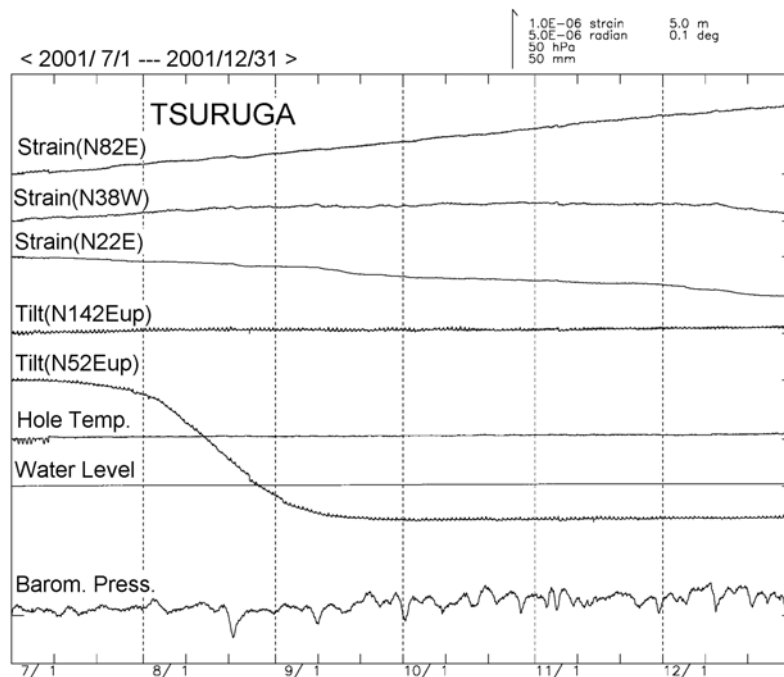
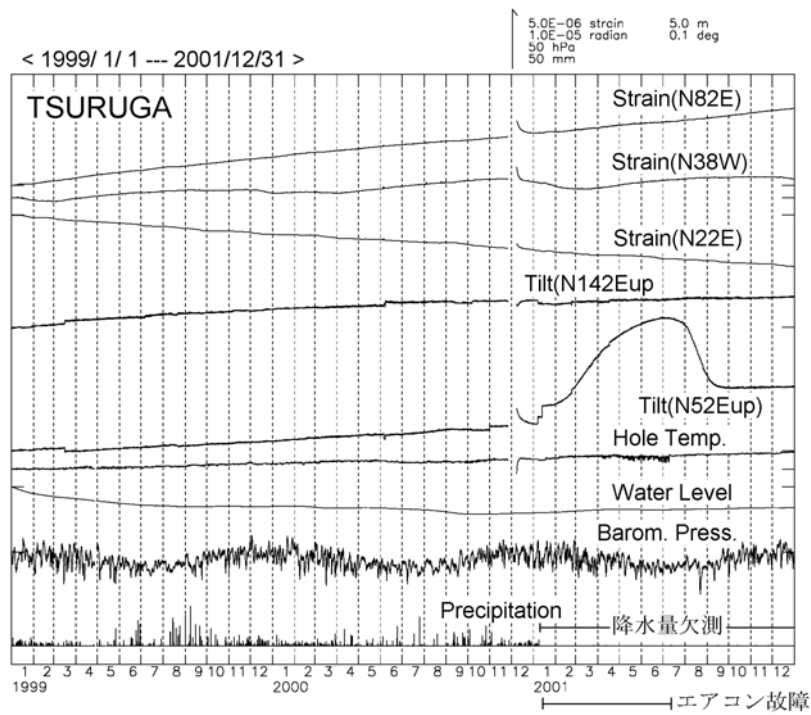
第1図 今津・敦賀観測点の位置

Fig.1 Locations of crustal deformation observation stations (Imazu and Tsuruga)



第 2 図 今津観測点における(上) 1999 年 1 月 ~ 2001 年 12 月、(下) 2001 年 7 月 ~ 2001 年 12 月の歪・傾斜変化 (時間値)。2000 年 5 月の変化は、停電のため。

Fig.2 (Upper) Changes of crustal strain and tilt at Imazu from Jan. 1999 to Dec. 2001. (Lower) Changes of them from Jul. to Dec. 2001. Strain changes in May 2000 were caused by power failure.



第3図 敦賀観測点における(上)1999年1月~2001年12月、(下)2001年7月~2001年12月の歪・傾斜変化(時間値)。2000年11~12月の変化は停電のため。2001年1月から9月の傾斜(N52Eup)変化の原因は不明。

Fig.3 (Upper) Changes of crustal strain and tilt at Tsuruga from Jan. 1999 to Dec. 2001. (Lower) Changes of them from Jul. to Dec. 2001. Strain changes from Nov. to Dec. 2000 were caused by power failure. The cause of the tilt change (N52Eup) from Jan. to Sep. 2001 is unknown.